

東京都  
慢性期医療  
研究会 報告

# 都慢研レポート

[発行所]  
一般社団法人  
東京都慢性期医療研究会  
[発行人]  
安藤高夫  
〒193-0942 東京都八王子市  
栢田町583-15 永生病院内  
Tel : 042 (661) 4109  
Fax : 042 (661) 4110

## 平成26年度 都慢研総会・特別講演会開催

開催日：平成26年5月31日(土) 場所：東京研修センター



挨拶 安藤高夫 会長

平成26年5月31日(土)、日本慢性期医療協会東京研修センターにて東京都慢性期医療研究会総会・特別講演会が開催された。開会にあたり安藤高夫会長から、看護部会、リハビリテーション部会、MSW部会の昨年度の活動に対し、今後各部会においては患者を在宅へ帰すという方向性を基本とし、いっそう活発な活動を期待するとの言葉があった。また都慢研の活動が少しずつ活発になってきていると思われるのは、全体的に慢性期病院の意識が高まってきているからではないかと語り、イベントや研修会の開催を頻繁にする等、会員病院同士の連携を深めてほしいと話した。さらに安藤会長は、今後は「顔の見える連携」ならぬ「腹の見える連携」の時代であると述べ、自院だけではなく他の医療機関や施設との連携が重要であると説いた。

特別講演では、3名の講師が講演を行った。都慢研理事、京浜会理事長熊谷頼佳氏は「まずは治せる周辺症状の治療から始めよう。3段階分類を使えば、かかりつけ医・看護師・介護職から専門医師へBPSDが正確に伝達できる」と題して認知症患者の対応について講演した。東京都福祉保健局医療政策担当部長村田由佳氏は「療養病床及び在宅療養に関する都の施策について」をテーマに、大好評だった昨年引き続き講演を行った。東京都の行っている療養病床整備事業については、療養病床転換促進支援事業のうち、平成26年度から開始した転換実行支援委託の紹介を行う等、都の療養病床への関心の高さがうかがわれた。在宅療養に関しては在宅療養移行支援事業、在宅療養支援員育成事業といった今年度から開始の新規事業に

ついて説明があった。こうした施策には地域医療・介護における多職種にわたる人材のニーズの強さがあらわれており、地域包括ケアシステムへの流れを感じさせるものであった。最後に、東京都医師会会長野中博氏が壇上にのぼった。「地域で支える」と題し、氏が長年提唱してきた地域ぐるみの医療のあり方を論じた。看取りに至るまで、いかに地域で自分らしく生きられるかを考え、地域での生活を支えるために我々は何が出来るかといった観点から、「治す医療」「支える医療」を述べた。

特別講演会の後、進藤晃理事(大久野病院理事長)の司会のもと総会が開催された。会員病院70院(当時)のうち委任状を含め53病院が出席を満了し、成立した。提出された議案は、第一号議案「平成25年度事業報告」、第二号議案「平成25年度



決算報告」、第三号議案「平成26年度事業計画」、第四号議案「平成26年度予算」であった。山口和子看護部会長（城山病院）、田原真悟リハビリテーション部会長（小平中央リハビリテーション病院）、伊藤正一

MSW部会長（大久野病院）ら各部会長はそれぞれ昨年度の活動報告を行い、今年度の活動は昨年度にも増して充実させていきたいと語った。本会をもって、全ての議案が可決された。総会の議案書および議事録は、

都慢研ホームページに掲載。会の最後に、事務局から、今年度の事例発表会は平成27年1月31日（土）に開催の旨が告知された。

## リハビリテーション部会 主催「介助技術講習会～基礎編」開催

開催日：平成26年7月6日（日） 場所：永生病院併設 介護老人保健施設イマジン

平成26年7月6日（日）、永生病院併設の介護老人保健施設イマジン2階にて、リハビリテーション部会主催のもと「リハビリテーション介助技術講習会～基礎編」が開催され、30名近くの受講者が集まった。田原真悟リハ部会長は開会の言葉として、休日にも関わらず勉強熱心な方々が多く集まったことに感謝を述べ、講習会で学んだことを現場に持ち帰り、大いに活かしてほしいと述べた。

前半は、永生病院の理学療法士柳川竜一氏による講義、後半は受講者がそれぞれグループに分かれ、リハ部会スタッフが指導に入って実技研修を行った。柳川氏は「自立生活を支援するための介助法」と題し、現場からの実例をまじえて講義を行った。我々スタッフは、なぜ患者を寝かせたきりにしてしまうのか、患者は起きて何をしたいのかを考えることが大切であると語りかけた。実技研修では、グループごとに寝返り動作、起き上がり動作、立ち

上がり動作、座位保持、車いすの移乗、二人介助の移乗などについて丁寧に実践。受講者とスタッフとで、現場で起こりがちな場面を想定し、対応する形で進められた。



## MSW部会、急慢連携活動の報告について

去る6月3日、都慢研MSW部会で取り組んでいる急性期・慢性期医療連携について、三次救急を担う立場から「高齢者医療連携塾」を展開されている東京医科大学救命救急センター兼任教授である太田祥一先生、そして進藤晃都慢研副会長、永生病院飯田達能院長、陵北病院田中裕之院長、他委員5名が参加し、懇談会を行った。

急性期医療を展開する大学病院側から慢性期の現状や事情を

把握し、理解してくれる貴重な場となり、お互いの役割や連携を図っていく上での問題点などについて意見交換がなされた。太田教授からは今後の急性期医師・看護師との現場交流による更なる慢性期医療との連携について発展的な提案がなされ、今後も継続してこのような場を設けて議論を継続し、急慢連携が今以上にスムーズに運ぶよう協力していくことが確認された。





平成26年2月8日(土)、東医健保会館にて第19回東京都慢性期医療研究会事例発表会が開催された。大久野病院が幹事をつとめ、演題は昨年より5題多い35題が集まった。当日は記録的な大雪となったが、260名にのぼる出席者が吹雪の中を会場に足を運び、盛況のうちに閉会となった。

開会の挨拶には安藤高夫会長が登壇した。安藤会長は東京都の独自性について触れ、療養病床や特養、老健といった高齢者向け施設の充足率が区中央部医療圏(文京、台東、千代田、中央、港)において著しく低いのに比べ、西多摩医療圏では300%にもものぼるといった指摘を行った。病床機能情報報告制度の開始等、今後の療養病床のあり方を考えるにあたっては、地域ごとの特色の把握が求められていると語った。また、今後増加が必至である高齢者救急において、我々は急性期からの患者の受け皿として機能すべく、「断らない慢性期」を進めていくべきであると語った。安藤会長は最後に、都慢研として介護療養病床の存続の重要性を訴えていくとの決意を語った。

その後の基調講演では、日本慢性期医療協会会長武久洋三氏が「これからの民間病院の経営はどうなる」と題して講演を行った。武久会

長は、平成26年度診療報酬改定が急性期、慢性期ともに厳しいものとなると述べた。7対1の算定要件において在宅復帰率が厳しくなった。さらに療養病棟においては在宅復帰機能強化加算が新設。今後急性期病院はこの加算をとった病院に優先的に患者を行かせるようになるであろうと、患者を受け、在宅に帰せる状態まで責任をもって回復させていくという療養病床の今後の努力の必要性を説いた。地域医療ビジョン策定についても言及し、地域性に目を向けず自院の機能だけに縛られては、人々に選ばれる医療機関にはなれないだろうと語った。最後に、日慢協では診療科目における「認知症科」創設を提案しているとの紹介を行った。認知症は早期の診断によりその後の進行が変わってくるため、認知症科の設置により対応しようという考えであり、実現に向けて動いていくと締めくくった。

特別講演では本発表会会長をつとめ、さらに都慢研副会長である医療法人財団利定会大久野病院理事長進藤晃氏が「大久野病院の紹介—リハビリテーションにおける質管理」と題して自院の取組を紹介した。氏は組織の見直しの取組みとして、就業規則や法人組織図、人事制度の見直しといった大枠の改革から、現場でのインシデント、アクシ

デント対策の取組といった実務的な側面に至る大久野病院の取組について具体例を挙げて説明を行った。情報の共有や、業務の見える化・標準化といった取組は、大久野病院の方針である「社会に活かす医療の提供」に結びついているという主張であった。

事例発表会は、二つの会場に分かれて行われた。優秀発表者は閉会式で表彰された。1位は金城恭子さん(「脳梗塞後の疼痛と精神機能面に対して集中的にアロマセラピーを実施したことにより一定の効果がみられた一例」)作業療法士、大久野病院)、2位は杉町光治さん(「緑茶を使用した下肢の洗浄の効果」)介護職、回心堂病院)、3位が松下裕之さん(「パイナップル果汁を使用した口腔ケアの検証」)看護師、小平中央リハビリテーション病院)に決定した。4位以下は順不同で、中本美香さん(「医療療養型病院における患者像の把握方法の開発」)介護士、相武病院)、植木有希子さん(「外来診察台における感染予防」)看護師、信愛病院)、佐々木洋子さん(「排泄物の臭いに対する酢酸の消臭効果の検証」)介護職、回心堂病院)、本間俊彦さん(「エンジェルカンファレンスを導入して」)看護師、陵北病院)の受賞となった。





事例発表会にて

**リハビリテーション介助技術講習会  
「STが教える摂食・嚥下の入門編～基礎を中心に～」  
開催のお知らせ**

毎年好評を博している講習会を、今年も開催します。  
平成26年10月5日(日)、会場は小平中央リハビリテーション病院  
です。発表概要は、追ってご連絡致します。  
希望者は、申込書を都慢研事務局までお送りください。  
都慢研事務局


**第20回事例発表会のお知らせ**

毎年恒例の都慢研事例発表会、特別講演  
会を平成27年1月31日(土)、東医健保会館  
にて開催します。  
昨年度に引き続き演題を募集いたします  
ので、ふるってご応募ください。  
応募要項等の詳細は、決定次第幹事病院  
からご連絡いたします。  
都慢研事務局

**事務局からお願い**

7月にファックスでお知らせ致しました通り、都慢研では会員病院名簿の更新作業を行っております。  
会員病院の皆さまにおかれましては、快くご協力頂きまして誠にありがとうございます。  
御返信頂いていない会員病院につきましては、こちらから改めてお願いのファックスをご送付致します。  
ご協力の程、何卒宜しくお願い申し上げます。  
都慢研事務局

 一般社団法人  
**東京都慢性期医療研究会 事務局**  
〒193-0942 東京都八王子市桐田町583-15  
TEL. 042-661-4109 FAX. 042-661-4110

都慢研レポートの  
バックナンバーはホームページよりご覧いただけます。  
PC・スマートフォン・タブレット用バーコードです。→   
<http://tmik.or.jp/>